

1. 研究実践の概要
2. 具体的な実践例
3. 成果と課題

1. 【研究実践の概要】（報告内容は前任校での実践に加え、現任校での取り組み）

【研究対象となった児童の実態】

考えを記述することや思考して意見を述べることなどの力の弱さ。学習したことが、活用の場面になると活かされないという課題

【課題に対するアプローチ】

『学習したことをどのように役立てるのか』という児童の抱える課題と、『言語能力の育成』という委嘱テーマに対し、国語科の『読む』単元の言語活動を中心に研究を進めることとした。学習単元でつけたい力を明らかにし、言語活動を通じて言葉を駆使する力を身につけていけばよいのではないかと仮説を立てた。それは、子どもたちに付けたい力は何か、そのためのゴールとなる言語活動はなにが相応しいかを吟味し、子どもたちが自ら学びたいくなるような学習計画を立て、単元を展開していくことを意味する。教科書教材で学び、並行読書材でその資質・能力を活かすことで、児童の言葉を駆使する力を育成しようという研究の筋道である。

教科書教材

で学ぶ

並行読書材

で活かす

- ・言語活動を通じて資質・能力を身につける
- ・並行読書材の活用

【取り組みの共通認識】

学び取り、役立てるという意識

⇒教師が身につけさせたい資質・能力をしっかりと把握し、相応しい言語活動を選定すること。

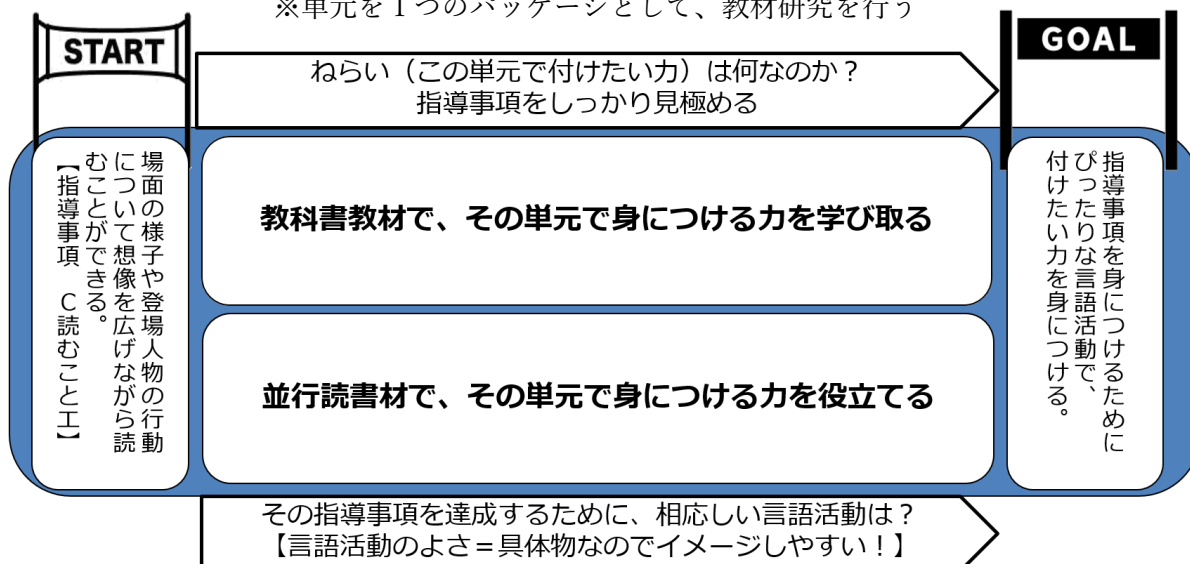
明確なゴールの設定

⇒子どもたちに、『何のために学習しているのか』という課題意識を、単元終了まで途切れさせない。

魅力的なゴール

⇒「取り組みたい！」と思うような言語活動を選定すること。それは、常に子ども目線であること。

※単元を1つのパッケージとして、教材研究を行う



2. 【具体的な実践例】

学び取り

【教科書教材】くじらぐも



役立てる

【並行読書材】ぐりとぐらシリーズ



場面の様子や登場人物の行動について想像を広げながら

読むことができる。【指導事項 C読むこと エ】

教科書教材で当該単元の指導事項を達成するために学び取り、並行読書材で学んだことを役立てる言語活動を行う。

学校図書館支援員、市立図書館司書



6年生『時計の時間と心の時間』専門的な知識で、並行読書材選定に不可欠な存在。

【並行読書材選定の3パターン】選定例

● 同一の作者・シリーズ

教科書「くじらぐも」

並行「ぐりとぐら」作・中川李枝子

● 同一のテーマ

教科書「うなぎのなぞを追って」

並行「動物に関する科学読み物、図鑑」

● 同一の登場人物

例) 動物が主人公の物語など

※パターンが重複する場合もある。

3. 【成果と課題】

【成果】児童の変化…少しの空き時間でも、本に自然と手が伸びるようになった。

学習意欲の高まり…教材研究と、児童の目的意識を高めたことが背景にある。

【課題】

図書の本の冊数不足と、確保の難しさ。

1人一台端末で手軽に情報を調べることのできる潮流。

端末…時短◎ 信頼度△

図書…信頼度◎ 時間・量△